

第7次宇美町総合計画策定のための
「うみまちトークカフェ」の記録
【概要版】

令和4年3月

I 「うみまちトークカフェ」の概要

(1) 目 的

「うみまちトークカフェ」は、第7次宇美町総合計画（令和5年度～令和12年度）」の策定にあたり、町民参画の一環として、公募町民や地域自治組織、各種団体、事業者、高校生の宇美町に対する評価、今後のまちづくりへの提案等を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 実施方法等

項 目	内 容
参加者	①公募に応募した町民 ②自治会や小学校区コミュニティ運営協議会などの地域組織 ③その分野に関係する活動を行っている団体 ④宇美町で事業を行う事業者 ⑤宇美商業高等学校生徒 計 52 人(当日欠席者 5 人)
分 野	①子育て ②生活環境・防犯・防災 ③保健・福祉 ④産業振興 ⑤文化・スポーツ・生涯学習・国際交流 ⑥地域振興、町おこし ⑦青年団
実施方法・実施日	事前記入票の配布・回収と分野別意見交換会（1分野5～6人）の実施。 参加者①～④→関係する分野毎に開催。 令和4年1月22日（土）・23日（日）うみ・みらい館2階 参加者⑤ →学校にて開催。 令和3年12月13日（月）
意見交換の内容	①参加団体等の活動紹介または参加者の自己紹介 ②関係する分野についての「宇美町の問題点・課題」 ③関係する分野についての「今後力を入れた方がよい取組」 ④分野を越えた町全体の視点での「今後力を入れた方がよい取組」 ⑤①～④を踏まえた上での「今後のまちづくりの重点（1つだけ）」

「トークカフェ」とは、従来型の座談会や懇談会、ワークショップの反省の視点に立ち（ざっくばらんな具体的な意見を発言しにくい、作業ばかりでいいことがいえない、結果・成果が反映されにくい等）、少人数のグループで、カフェでお茶を飲んでおしゃべりをするような気兼ねない雰囲気の中で、ざっくばらんな本音やアイデアを交換できる場を提供するものです。

Ⅱ 宇美町の問題点・課題と 今後力を入れたほうがよい取組のとりまとめ

うみまちトークカフェにて出席者にお聞きした以下の二つの質問に対する回答を各分野ごとにまとめたものです。

- (1) 宇美町の問題点・課題
- (2) 今後力を入れたほうがよい取組

各分野

- 1. 保健・福祉分野
- 2. 文化・スポーツ・生涯学習・国際交流分野
- 3. 地域振興・まちおこし分野
- 4. 産業振興分野
- 5. 子育て分野
- 6. 生活環境・防犯・防災分野
- 7. 青年団
- 8. 高校生(※)

※高校生は、

- (1) 宇美町のよいところ
- (2) 宇美町のよくないところ

の質問に対する回答をまとめています。

1. 保健・福祉分野

【(1)宇美町の問題点・課題】

①情報提供・発信

- 障がい者に対する町民の理解・認識が足りない。
(聴覚障がいは一一人が違い、コミュニケーション手段も多様である。)
(マスクでコミュニケーションがしづらく、孤立になりやすいことの認識がうすい。)
- 健康に対する若い世代や子育て世代の関心が低い。知る機会や場所を設ける必要がある。
- 災害時の避難所での聴覚障がい者に対する情報保障などの対応が必要。

②行政サービス

- 手話通訳の職員が毎日常駐していないため、役場を平日(月～金)利用したいときに体制が整っていない。
- 週夜にボランティア支援センター「ふみらぼ」部屋を利用の申請を、毎週日中に行わなければならない不便である。
- 介護保険以外のサービス不足。はざまの人へのサービスが不足している。
- 土日フルサポートできる町政サービス。
- 障がい児者のリハビリ施設や障がい者就労施設の不足
- 若い世代の流入も多いのが、明るい発展的な交流が少ない。

③施策

- 後期高齢者の医療費の削減する必要がある。
(減塩生活の推奨、食育での発信)
(心臓病や脳血管疾患などの重篤な疾患の救命後の治療費の削減)
- 障がい者に関する意識調査を行い、問題把握と課題解決が取り組む必要がある。
- 高齢者の健康介護だけではなく、若い世代に向けた予防的な介入が必要。

【(2) 今後力を入れた方がよい取組】

①情報提供・発信

- 聴覚障がい者に関する認知度の向上や、コミュニケーション方法についての情報発信（身振り、筆談、スマートフォンの音声認識アプリの使用）
- 若い世代や子育て世代の方々等、様々な町民が興味を持つように情報を発信を行う。（SNSや広報記事の工夫、著名人の講演会、メディア戦略）

②行政サービス

- 高齢者・障がい者・生活上の困難のある人たちに対するサービスの充足。
（買い物難民への移動販売・ボランティアも必要だが払える範囲内の有償での生活援助、移動支援（乗合タクシー等）
- 介護予防事業所同士の連携。
- 地域包括支援センターの分散化（役所にとどまらず広くサービスを提供する）。
- 身近な相談支援や体制の充実。

③施策

- 手話を学ぶ機会を増やす。
（小・中学校での手話教育、病院、公共施設、スーパー、コンビニなどで手話を学ぶ機会）
- 手話奉仕員養成講座の単町（宇美町）開催。
- 医療費全国ワースト1位の脱却のため、若い時から健康づくりの意識向上を行い、生活習慣を改善して、病気の予防をする。
（コミュニティ単位での子育て中の若い人向けの教室の開催）
（高血圧に関する情報発信）

2. 文化・スポーツ・生涯学習・国際交流分野

【(1) 宇美町の問題点・課題】

① 情報提供・発信

- 広報宣伝活動に力を入れていない(子どもがどのようなスポーツを行っているか、またスポーツ大会の結果などの情報発信。量と質を考える。)

② 公共施設

- 中央公民館の設備改善
(トイレ、高齢者等へのバリアフリー)。
- スポーツ施設の設備改善(老朽化改善、特にトイレ)
- 施設の利用制限内容が多いため、他町に拠点を移される人も多い。
- 将来のしーず・うみ閉館後の際、現在と同じようなサークル活動ができるような場所の確保。

③ 施策

- スポーツイベントで町外からの人を呼べる事業が少ない
(蹴-1グランプリは今年度中止)
(スポーツ少年団は共催事業実施18大会／年間)
- スポーツ協会の主催事業が決まっていない(現在検討中である)。
- 高齢者のデジタル化が課題であり、公民館を核にしてスマホの使い方などの講座を実施すべき。
- 全体の流れを把握して、宇美町の現状を認識すること。
- 話合いのルールを確立して、前向きな議論ができる人材・場所・時間を確保すること。
- 「しーず・うみフェスタ等」サークル活動の発表の場があると、活動の意欲につながり、励みになる。
- 高齢化が進み、独居世帯や若い人が世帯にいない高齢者世帯が多いため、スマートフォンの普及率が低い。

【(2) 今後力を入れた方がよい取組】

① 公共施設

- 町民全体の交流の場を設けてほしい(中央公民館以外の施設がほしい)。
- 誰もが参加しやすいように(場所、時間、使用料などの工夫)してほしい。

② 施策

- 町おこしになる大々的なスポーツ大会(障がい者参加型)
- 宇美町の特色を活かしたスポーツの普及・啓発
(一本松公園を活用したアウトドアスポーツ、四王寺山のハイキング等)
(自然、文化財にあてたウォークラリー、宇美町を代表するスポーツづくり)
- 障がい者スポーツの推進。
- 部活動改革(小学校ではスポ少、中学校ではスポ少やめて部活動となるが、一緒になって行えばよい。指導者の活用の面でも)。
- 生涯教育が町の活性化につながるというサイクルを理解していただいて、各個人の幸福に貢献できるようにしていく。
- 色々なサークル活動や講座を開いてもらいたい(自分の好きな活動に参加できる機会が増え、年齢を問わず、生活が豊かになり、新しい人とのつながりもできると思う)。
- SDGsに沿った取組。
- 高齢者対策:例えばオンデマンドバスの運用は高齢者のデジタル化の成否にかかっている。

3. 地域振興・まちおこし分野

【(1)宇美町の問題点・課題】

①情報提供・発信

- 宇美町といえばこれだというものがない。糟屋郡の中でも町の認知度が低い(特に高校生を含めた若者の認知度が低い)。宣伝不足。

③施策

- 地域活性化、文化のあるまちづくりには「人」が重要である。その「人」を育成する、特にリーダーの育成が必要だが、宇美町はそのシステム(講座・カリキュラムなど)が不十分ではないかと感じている。
- 他の町に比べて、町おこしイベントが少ないように思う。また、町おこしをしようと活動している団体も少ないように感じる。
- 町の特産品が少ない。
- 自然を活かしきれていない。
- 若者が楽しめるところが少ない。
- 予算がないと何も動かない。

【(2) 今後力を入れた方がよい取組】

①施策

- まずは人材育成の講座やカリキュラムを実施し、地域のボランティア活動などに寄与できるようなリーダーを育成する。活動が活性化されれば、それに伴い行政がハード面（資金や設備等）での支援を行い、さらには町内外にプロモーションを行い、さらなる活性化へとつながっていく。このスパイラルを構築する。
- 宇美町の特産品を集めた道の駅をつくる。
（20～30代の女性をターゲットとした、地元の食材を使ったレストランや、ミニステージなど）
- 宇美68グループである、篠栗88や志免68では、グループの名前にちなみ、6月8日、8月8日には各種イベントを開催したり、役場職員がグッズTシャツを着て公務を行ったりしているで、同じグループとして宇美68でも町おこしイベントや役場職員の協力をいただきたいと思う。
- 町が主催のイベントを開催し、各方面の方が参加できるようなことを考えてほしい。
「宇美町フェスティバル」をもっと認知度を上げて宇美町以外の所（博多駅前等）で物販や案内を行いたい。
- 野外イベントの開催
- 用途地域による土地利用制限を全体的に見直してほしい。

②施設等

- 施設や自然環境の利活用
（うみ・みらい館1階飲食スペース、井野山、一本松公園アスレチック場をドッグランへ）

4. 産業振興分野

【(1)宇美町の問題点・課題】

①情報提供・発信

- 福岡県内での注目度が低い。町の知名度が低い。

地域資源を、どのように町・県内外に伝えて行くかを検討する。

(宇美八幡宮、一本松のキャンプ場、岩盤地下水、ヤギミルク、博多織(伝統工芸)等)

③施策

- 中山間部の農業者を取り囲む問題として、農業の衰退が著しく進んでいる。
(農業者の高齢化、耕地の荒廃化、有害鳥獣被害、担い手不足、農業所得低下、不法投棄、親元就農者が認定農業者になる制度がない。等)→農地の減少
- 国(農林水産省)の農業政策である補助制度にほとんど該当しない町となっている。
- 農業大学への推薦と助成制度の構築。
- 町のイメージ拠点の構築
(宇美八幡宮は歴史の話に沿った「子育て」というイメージの最大の武器となっている。)
(篠栗町の339Re(観光交流拠点)のような第二の拠点の構築)
- よりよい地域資源の活用を検討
(宇美町を元気にしたいと考えている人や協力・アピールしていくことができる人を掘り起こすことにつながる。)

③都市計画

- 福岡県は九州の物流において一極集中の状態が続いており、倉庫賃料の高騰はあるものの、福岡都市圏においては、至便なアクセスと労働力を保持している。
その中において、宇美町は道路インフラの整備が不十分(アクセスが悪すぎる)。
- 産業用地としてとして開発できる大きな土地がない。

【(2) 今後力を入れた方がよい取組】

①情報提供・発信

- 宇美町のヒーロー「ばってんジャーさん」の活動(ボランティア)に焦点をあてていただきたい。

②施策

- 農業への企業参入の推進。
(会社組織による農業衰退の食い止め。ただし、農業界の魅力向上と、農機具のコスト面の問題を解決する必要がある。)
- 国(農林水産省)の手厚い補助制度の恩恵が受けられる仕組みづくり。
(補助制度が受けられない場合、同等の町の補助金制度の創設。)
- 町の補助・助成制度の見直し(要件の緩和)
(宇美町農業振興推進事業補助金30～40%⇒50～60%)
(土地借受助成金 土地の形状、法高に応じた作業労務の変化率を加算)
(水利組合助成金見直し。福岡県労務単価普通作業員19,500円以下)
- 山間地の耕作放棄農地の土地所有者との組織を地区ごとにつくり、農地を保全する。
- 官民連携における垣根の緩和
(役場と商工会との距離を詰めることで全体的な流れや考え方などをお互いに知ることができ、様々な場面で選択肢が増える。)
- 外部からの人流確保。
(イベント施設関係(大型スーパー、自然環境を利用、道の駅))
(交通アクセスの整備(交通アクセスの向上、駐車場の確保)
(宇美町内の雇用の実施)
- イベントが定期的に行える場の整備と情報提供。
(「うみカフェ」、デイサービスセンターの「お庭でマルシェ」など)
(駅前にコンテナ等の販売スペースの確保)
- 定期的なイベントの開催(100周年事業の一環でもあった、「宇美町フェスティバル」等)

③都市計画

道路整備

(古賀筑紫野幹線や近隣市へのアクセス整備、県道68号の渋滞解消(バイパス道路)

産業用地の開発

(環境に配慮した山間部の開発造成、農地の転用)

5. 子育て分野

【(1)宇美町の問題点・課題】

①情報提供・発信

- ここに来れば情報が拾えるという開かれた情報交流の場が必要である。
- 子育てに関するサポートの事業に関する情報が十分に伝わっているのか心配である。
(学校からのお便りや町の広報など目を通す余裕がない場合もあるので、学校と町は連携して早目の対処をお願いしたい。)

②施策

- 保育園の空きがない。(待機児童)
- 自治会内での子どもの人数の減少。また、参加したくてもできない世帯が存在することへの対応。宇美町の子どもが安心して、色々なことに参加できるようにする制度設計とその情報発信。
- 子どもたちの現状と保護者の考えを行政側に伝える場の構築。
(各自治会が連携するにしても地域独自のルールが揺らぐ見直しの動きも期待できず温度差がいつまで経っても埋まらない。今の時代に合わせた活動内容の検討)
- 少子高齢化の進行など時代に合わせて子育てに関するシステムを変えていかないと、うまくいかない。(ゆずり合いや横のつながりの形骸化)

③行政サービス

- ファミリー・サポート・センターにおいて受け入れる時の書類が多すぎる。
(朝の忙しい時間にサインや印鑑をもらわないといけない。)

④公共施設

- 幼児と小学生が一緒に遊べる児童館のような場がない。
- 井野小校区の井野、平成は公園が少ない。
- 小さな公園は数箇所あるが、大型遊具・駐車場がある公園(志免町の総合福祉施設「シーメイト」など)がない。

【(2) 今後力を入れた方がよい取組】

①情報提供・発信

- 多くの子育て世帯に届くような情報発信の仕組みづくり。
- ファミリー・サポート・センターの仕組みをまだまだ知らない人が多いため、情報発信について検討すべき。
- 団体間の情報交換の仕組みづくり
(町に登録された団体がたくさんあるが、連携することがなくこちらも活動の関係者以外に知ってもらう機会が少ないように感じる。子どもたちに関心を持ってもらえる団体の活動発表の場(文化のつどい以外)や町役場の中に掲示板があるとよいかもしれない。)

②施策

- 子どもの居場所づくり(学習サポートや文化体験等)
(様々な理由で自治会に加入できない家庭の子どもを取り残すことのないような居場所を設けてほしい。)
- コロナ禍に対応した子育て施策。
(親同士のコミュニケーションが希薄になってきているため、親が気軽に集まれる場所づくり)
- 現在の保護者のニーズに合わせた組織と活動の見直し。
(都市化に伴い仕事で多忙の親が多い中、子ども会育成会連絡協議会の役員のなり手がいない。昔のよさを残しつつ、現状に合わせるやり方を検討すべき。)
(地域によって子育て世帯数にばらつきがあり、そこに組織への強制参加が加わると人数が少ない地域では役割分担の負担が大きくなってしまう。)
- ファミリー・サポート・センターを利用したかったが、「おねがい会員」でも2回の講習が必要なので、利用したいと時にすぐに利用することができなかった。緊急の場合でも利用できるような制度をつくってほしい。
- ファミリー・サポート・センターの利用前の講習会等は必要だと思うが、もう少し気軽に利用できるとよいと思う。

③公共施設

- 幼児と小学生が一緒に遊べる児童館の整備
(「ゆうゆう」は未就学児が親と一緒に遊びに来れるところだが、小学生が遊べるところはないのかと思う。雨の日でも遊べる)

6. 生活環境・防犯・防災分野

【(1)宇美町の問題点・課題】

①情報提供・発信

- 地域猫活動についての理解と協力。
- 全県に共通しているが、住民の地球温暖化防止に対する意識が低い。
地球温暖化は本当に大変だということをわかってもらいたい。
- 住民への防災訓練やイベントなどの情報発信力を上げる必要がある。
（「何をしているのか知らない」が多い。）

②施策

- コミュニティ参加者の高齢化。
（体を動かすことが難しく、各イベントの参加ができない）。
- 宇美川源流の豊かな名水を水道水としてもっと利用できないか？
（水の自給率の低さ）
- 環境教育として、全小学校に五感で自然を感じとるビオトープを作ってはどうか。

④公共施設

- 防犯カメラの取り付けが進んでいるが、管理のあり方、防犯カメラの役割を果たしているのか
（木が茂っている）。

【(2) 今後力を入れた方がよい取組】

①情報提供・発信

- 地域住民への説明と理解を求める活動を進める。
(志免町では、町が回覧や広報、ポスターをつくって配布した。宇美町でも行ってほしい。)
- 住民の意識改善のための広報活動を増やす。
- 各自治会やコミュニティ参加メンバー等とのスムーズな情報伝達・共有をスムーズにする取組

②施策

- 住民向けの災害時のマニュアル作り
- 全コミュニティとの合同防災訓練
- 小売業等との災害協定
- 防災・防犯を柱とする「安全・安心」に住めるまちづくりの推進。
- 住民のつながりを大切にしたまちづくり「ご近所力」アップの取り組み。
- 子育て世帯が参加しやすい自治会・コミュニティづくりの推進
(参加のハードルを下げるには、20代・30代・40代の取り込みが必要。)
- 原田小学校区コミュニティ事務局内のWi-Fiを活用し、PCを使えるフリーカフェで人集め(無料利用)。
- 各課に分けているだけではなく、地球問題に取り組む「何でもやる課」の設置。
- 町民のボランティアと行政の取組強化
(共働のまちづくりの達成)
- 地域ごとの巡回の強化や、地域コミュニティの活動強化
- 住民の意見・要望の収集の仕組みを作る。

7. 若者代表

【(1) 宇美町の問題点・課題】

①情報提供・発信

- 行政・町民・団体の連携による回覧板やチラシを使った情報を提供。

②施策

- 小学生から成人までの親世代が外に出て何かをすることが少なくなった。
- 苦情問題(花火の騒音、ごみ等)によるイベント等の減少。
- 宇美町外で活躍する選手(アマ・プロ)への町をあげての応援や支援が少ない。
(興味、関心が物足りなく感じる。)
- 町の魅力となるものを増やした方がよいと思う。
(町をPRする上でのコンテンツを増やす。)
(ヤギミルクなど新しい特産品を増やす。)
- 「町のスポーツ」をいかに盛り上げていくのかの検討。
(町出身者でスポーツで活躍する人が多い)
(スケボーパーク等の利活用)

【(2) 今後力を入れた方がよい取組】

①情報提供・発信

- 情報発信は回覧板等で“いつ”、“どこで”、“何をするのか”がわかるように周知した方がよい
(スポーツ等)。いやでも目に入るようなところに貼っておくなど。

②施策

- 学校や団体を交えた小・中規模のイベントを増やす。
(過去にあった行事やイベントの再興)
(高齢者から子供へ昔の遊び(竹とんぼ、竹馬など)を教えるイベント)
(「月に1回、この小学校を使って、青年団がお手伝いして行います」といったような取組)
- 宇美町外で活躍している選手(スポーツ従事者含む)をリサーチし、熱い応援(公共施設を開放したパブリックビューイング、町民のメッセージ動画)、備品などの支援する取組と
地元に戻元できる機会の企画の実施。
- 空き家、空き地の利用。
(人口を増やすにしても、何か施設をつくるにしても、土地が必要になってくる。)
(スポーツ施設や古民家カフェ等)

8. 高校生

【(1) 宇美町のよいところ】

① 自然環境

- 緑が多い、自然と触れ合える機会が多い。空気がきれい（一本松、バンガロー、川遊び、井野山）
- 自然に囲まれている、自然が豊かなところ（複数人回答）

② 地域

- 地域のかかわり、つながり、声掛け、家族のつながり、子供連れをよく見かける。知っている人、知らない人関係なく挨拶をしてくださる。近所の仲が良い。
- 地域交流が盛んなところ（複数回答）
- 百人一首や相撲など伝統行事が盛んに行われている。
- 地域全体で子育てに参加している。

③ 観光

- 宇美八幡宮（家族連れを多く見かける。）
- 美しい観光地がたくさんある。

④ 生活環境

- コンビニが多い。
- バス停が多い（複数回答）
（高齢者にとっていい環境）
- 保育施設が増えている。
- 慌ただしく時間が過ぎているように感じないところ

【(2) 宇美町のよくないところ】

① 情報発信

- 宇美町の商品について宇美町在住の人たちが知らないことが多い。

② 観光

- 宇美八幡以外にシンボルがない。

③ 生活環境

- 街灯が少ない、暗い。（複数回答）
- 歩道が狭い。
- 道路の段差（デコボコ）が多い（複数回答）
（道の整備がをしたほうが良い、年配の方が多いのでバリアフリーを増やした方が良い。）
- 電車（JR）の本数が少ない（複数回答）
- 交通の便が悪い。バスの本数が少ない。学校から電車の駅までが遠い。
- コンビニやスーパーが近くに無い。お店（飲食店）が少ない。
- 古くなった場所や汚れている場所が放置されている
- 子どもの遊ぶ場所が少ない、大人の目の行き届かない場所に公園があつたりする。
- 食事をする・集まれる場所がない。
- 路上のごみ、たばこポイ捨てが多い。

Ⅲ 町全体の視点で今後力を入れた方がよいと思う取組

うみまちトークカフェにて出席者にお聞きした以下の質問に対する回答を内容の種別ごとに一括してまとめたものです。

○町全体の視点で今後力を入れた方がよいと思う取組

※高校生は

- (1) 今後、宇美町はどんなまちになったらよいと思いますか？
- (2) まちづくりの中で「こうしてほしい」、「こうしたいのに」ということに対する回答をまとめて記載しています。

共働	○ 誰かだけがやるのではなく、全体で参加できるやり方 ○ コミュニティビジネスづくり。 (自治会、コミュニティによる「自主財源の確保」地域ブランド品、特産品の開発。) ○ 地域行事を盛んに行い、若者と高齢者などのつながりを深める取組 (昔あそび、昔の話。) ○ 分野間の密なる連携や学生と地域の交流 ○ 地域のリーダーの養成。次世代の役員候補の育成。 ○ 「町民向けのまちづくり講座」。ここから仲間づくりをスタートして子育て支援や福祉の充実、地域課題の解決などにつながり、自治会・コミュニティ・町全体の活性化へつなげる。 ○ 自治会、コミュニティ等への参加者を増やす(高校生、大学生を参加可能にする)取組。
防犯防災	○ 聴覚障がい者を含めた「災害時要配慮者」に対する避難訓練や学習会の実施 (町民や行政職員対象) ○ 災害時等にもすべての町民が宇美町で安心して暮らしていけるための取組。 ○ 防犯教育、イベント、情報共有(防犯カメラの増設)の強化。 ○ 夜間に安心して生活できる町。 (街灯設置・歩道確保) ○ 鳥獣対策 ○ 危険箇所の信号機設置 ○ 土砂災害対策 ○ 不審者から避難協力店舗の確保
福祉	○ 「宇美町手話言語条例」の制定。 ○ 聴覚障がい者への認知と手助け ○ 高齢者や障がい者にやさしいまちづくり。 ○ 健康促進(後期高齢者医療費が県でワースト1位脱却。町民全体の協力)
子育て	○ 宇美町の子育て事業の予算確保による地元愛の向上 ○ 自治会、育成会、子育て連などの加入に関わらず全ての子どもが地域の活動に参加できる仕組みづくり ○ コロナ禍での子育て事業や行事の対策 ○ 子どもたちの教育環境の充実や治安をよくする取組などを通じて、子育てしやすい町をアピールしていく。 ○ 子育て世帯が近場で楽しめるイベントの開催や公園の整備 (未就学児、小学生等が遊べる機会を増やす) ○ 保育場所、保育園の数を増やして待機児童を減らす。

学校教育	○ 小・中学校生の食育(給食の充実)、小中学生の各分野研究への支援(子どもをのばす場づくり)。 ○ 子どもたちの育成について問題・課題解決のための手順を考える。どのように教えるかを考える。 ○ 50年後・100年後を考えて、今何を成すべきかを考えて行動することについて学校教育の中で子供たちに教える。
社会教育	○ 中央公民館の整備充実(他町なみに色々な活動をしたいし、町民に満足してもらいたい)。 ○ 施設を借りる際に、宇美町在住の18歳未満の人は、安く借りられるようにしてほしい(おこづかいで借りられる。学割等)。
スポーツ	○ 町民全体が参加できるイベント(町民運動会など) ○ 新しいスポーツの環境づくり(スケボー、ポッチャ、車椅子バスケ、フロアーカーリング等)。 ○ 自治会(小学校区)対抗の総合スポーツ大会(eスポーツ・キャンプ・登山etc)など、老若男女の運動を推奨する。 ○ スポーツイベントとふるさと納税応援寄付金事業とのコラボレーションを行おう(事業の賞品に返礼品を提供したり、パンフレットを配布)。 ○ スポーツ活動をとおした健康づくり(医療費削減につながる。トレーニングルームの活用) ○ スポーツ選手の支援団体や後援会設立のサポート。 (地元企業はスポンサーになる流れや仕組みづくり。) ○ 宇美町と同規模程度のスポーツでにぎわっている自治体との比較。 ○ 「宇美町外で活躍するスポーツ従事者が宇美町に恩返しをし、未来につながる活動をしたい」と思える取組。
企業誘致	○ 税收確保のため、優良企業・教育機関の誘致 ○ 区画整理を行い町主体の企業誘致を実施してほしい。 ○ アミューズメントパークやアトラクション施設、おしゃれなカフェ、ショッピングモールなど、若い人が興味を持つ施設をつくるための企業誘致 ○ 若い人が集まりやすいファーストフード店など誘致。(子どもも多く、高校もある。) 飲食店の誘致。コンビニの誘致 ○ コンビニなどが増え、高齢者の方々が少しでも楽になるとよいと思う。ショッピングモールみたいな大きな施設に行けない方のために、小さなお店がポツンポツンとあればよい。
雇用	○ 宇美町のポジション、賃金が上がるようなまちづくり。

自然環境	○ 宇美町の自然豊かなところを後世に残したい。(田畑が荒れて、少なくなっている。) ○ 省エネを意識した行動(互いの思いやり)。ごみ排出量の削減など。
観光	○ 過去に一本松から山の頂上までロープウェイ整備 ○ 古代史の文化資源の観光・教育への活用。(古墳、大野城趾、宇美八幡等の総合活用や、近隣市・町との共同開発。)
地域振興	○ 宇美町で一番集客力がある宇美八幡宮を活かしたまちづくり ○ 町全体を周遊してもらうようなイベントの開催。 ○ 町のシンボルである宇美八幡宮でのイベント開催。 ○ 子どもを集めるイベントの開催。 ○ 町外者が訪れるようなイベントの開催。 ○ コロナが終息後のイベントの開催 ○ 1,000人規模の人と車の収容ができるイベント会場の整備。 ○ 住民との話し合いを経て、「楽しさ」を追求できるイベントや空間の開催・設置。 重要視するのは「楽しさ」であり、人を集めることや継続性のあるボランティア活動に繋がる。 ○ 「歴史と文化の町」の看板設置 ○ 大型チェーン店ばかりではない面白味のあるまちづくりを期待する。 ○ 「コロナに負けるな！！宇美町にぎわいづくり事業」(補助事業)の継続と、上限金額の見直しや取組内容、対象者の緩和等も含めて検討。 ○ 町と商工会のブランディング。 ○ 駅前および宇美八幡宮周辺の活性化 (商店街の有効活用(リノベーション)と活性化。照明設置。) ○ 団体の活動やイベントの開催に際し、専門家によるアドバイスがほしい。 ○ 空き家の活用(商業利用)・空き店舗の活用(宿泊施設としてリノベーション) ○ 有料型のキャンプ場の新設。 ○ 職人さんによるボランティア集団(大工さん等)を組織する。 ○ 宇美町といえばコレというものをつくった方がよい。 ○ 宇美は家族連れが楽しむ場所がない。 ○ 宇美駅の利活用 (JR九州ウォーキングなどの定期開催、イルミネーションの規模拡大、駅弁コンクール)

農業振興	○ 都市計画では、線引きできないと思うが、町として農地を残す地区を土地所有者と連絡協議会を立ち上げて、組織づくりして農地を保全する。 ○ 耕作放棄農地を土地所有者から町が借り受けて町民に貸す取組。 ○ 耕作放棄地の活用。
地域交通	○ 交通インフラの充実、渋滞緩和のため、モノレールの整備。 ○ 町の主要施設等をつなぐコミュニティバスの運行。 ○ 道路問題をハードでソフトで解決に導く仕組みづくり。 ○ 大野城方面へのバスの運行。太宰府までの鉄道を検討する ○ 交通網の整備 ○ バスの停留所や本数を増やす。 ○ 公共交通の利便性の向上
都市計画	○ 自然を保護するところや農地として残すところを明確にし土地利用の制限を行う。 ○ 狭小道路の歩道設置およびデコボコ解消 ○ ユニバーサル・デザイン(年齢・性別問わず利用できる施設)。 ○ 工場が立ち並んでいる地域の周辺の歩道にはコンクリート殻が落ちている。
生活環境	○ ごみ拾いを積極的に行ってほしい。 (川の法面ごみ袋撤去) ○ ゴミ箱の設置 ○ 外国の方が住みやすいように英語表記の看板設置。
情報発信	○ 宇美町の魅力・グルメ・イベント情報等、知名度アップのための情報発信の推進 (宇美八幡宮・世界に向けたPR・100年続いた町・活動の可視化)【回答多数】 ○ 町として今後どうしていきたいのか、行政の立場としての意見も聞きたい。 ○ 役場内等でのチャンネルブース、放送室、町内ニュース番組づくり)。若い人をいかに巻き込めるか。(公式You tubeチャンネル、SNSの活用) ○ 一本松公園や宇美八幡宮を訪れた人が町内の周遊、買い物を行うような情報発信。 ○ 宇美町は優しい方々が多いが、それを知っている人は少ないため、交流が生まれるような情報発信を行う。

デジタル化	○ 高齢者が気軽にネットなどにアクセスでき、様々なサービスが自由に使えるような環境づくり。 (自治公民館のWi-Fi設置) ○ 自治会、コミュニティ等へのネットデジタルネイティブの参加者を増やす。大学生には会社経営を学ぶ場所として自治会やコミュニティに入ってもらい、大人がサポートする。 ○ プログラマー・デザイナーやイベント運営等の経験者の掘り起こしをし、自治会、コミュニティ等への協力体制づくり。 ○ 団体との情報共有、ノウハウの共有(よい所を学ぶ)、レベルアップへの取組。 ○ IT機器の活用への取組。
移住定住	○ 町の人口減少の解消として、Iターン就職支援のための移住支援金を検討してほしい。 ○ 子育て世帯へのアプローチを考える。宇美町に移り住むメリットをつける。
その他	○ 行政職員が住民へサービスを提供する際、疲れていては本当のサービスはできない。 また、学校も同様である。 ○ 水源の有効利用。 ○ 他の町との合併。 ○ SDGsへの取組強化。 ○ みんなが笑顔であふれる町。笑って暮らせるまち。 ○ いきいきした宇美町になればよい。こんなによいところはない。

Ⅳ 今後のまちづくりの重点に関する提案のとりまとめ

うみまちトークカフェの最後に、それまでの意見交換等を踏まえ、出席者全員に「今後のまちづくりの重点（分野にかかわらず、最も重視すべきこと1つ）」をお聞きしましたが、その結果を抜粋すると、以下のとおりです。

分 野	今後のまちづくりの重点（最も重視すべきこと1つ）
1. 保健・福祉分野	◆ 「宇美町手話言語条例」の制定。
	◆ 健康と福祉のまちづくり。
	◆ 若い世代の育成。
	◆ 高血圧をゼロに。子どもの時からの食育の推進。
	◆ 小・中学生への情報発信と、若い人に来てもらうための発信方法の工夫。
2. 文化・スポーツ・生涯学習・国際交流分野	◆ 生涯学習の推進。
	◆ 子どもたちの教育。
	◆ 生涯学習の推進。施設の充実。
	◆ ちゃんと話し合いができる人間を育てる。
	◆ 生涯学習の推進。食事するところがあれば人が来てくれる。
	◆ 高齢者のデジタル化の推進。
3. 地域振興・まちおこし分野	◆ 人づくり。
	◆ 元気なまち。
	◆ 楽しいまち。
	◆ 子どもにお金をかける。
	◆ 宇美町に来れば何かがあるまち。
4. 産業振興分野	◆ 鉄道網を接続してもらいたい。
	◆ 農業政策の情報を的確に収集・提供して予算化してもらいたい。
	◆ 人口増加に力を入れる。
	◆ 子どもの支援。
	◆ 骨になるまで宇美町で暮らせる仕組みをつくってもらいたい。
	◆ リーダーが行動を起こす、行政が動き、住民を巻き込むことが重要。

分 野	今後のまちづくりの重点（最も重視すべきこと1つ）
5. 子育て分野	◆ 心身の健康づくり。
	◆ 都会に出てもいずれば帰って来れるような「住みやすさ」がほしい。
	◆ 子育てしやすいまちにする。
	◆ 子育てを中心としたまちづくり。
	◆ 年齢に関係なく情報アクセスしやすい環境づくり。
6. 生活環境・防犯・防災分野	◆ 人と動物と環境にやさしいまちづくり。
	◆ 教育・子育て。
	◆ デジタル化の推進。
	◆ S D G s を全職員・全町民に浸透させる。
	◆ 人が集まるようにする。
7. 若者代表	◆ 高齢者が過ごしやすい、笑って暮らせるまちづくり。
	◆ まちの活性化に重点を置く。
	◆ 町の魅力を増やす。
8. 高校生	◆ 住んでいる人たちの生活度の高さを第一に考えるべき。
	◆ 利用した人の口コミで広がっていくようなひきつける施設。
	◆ 住んでいる人自身の住みやすさ、利便性・安全性。
	◆ 幅広い年齢にアピールできる催し。
	◆ 食べ物所、遊び所、野生動物、宇美商業の高校生との連携したインスタ。
	◆ 宇美町の存在アピール。宇美町はこれ！というもので知名度を上げる。
	◆ 情報発信。
	◆ 情報発信。
	◆ 電車を降りてくる人が多い、人も学校も多い町に。
	◆ 公共交通機関の整備。
	◆ 宇美から一生出たくないと思える取組。
	◆ 意見交流の場が必要。宇美の人が出たくないと思える町。